第1回千葉市新基本計画審議会第1部会におけるご意見

第1部会：資料2

No.	原案の該当箇所				意見の概要	委員	両部会に共通する意見
1	第4章	全体			施策展開で「やる」という方向性は出ているが、実現するためにどうしていくのかを、市民がどれだけ理解するかにかかっている。市民が目を通すのは具体的な部分であり、市民の果たすべき役割を、市民がもう少し理解しやすい文章構成・表現にすべきである。	小河原委員	○
2	第4章	全体			施策を実現するための予算が不明確である。P14「財政状況に関する基本認識」があるが、これだけでよいのか。施策展開と関連付けて書いた方が親切だと思う。	小河原委員	○
3	第4章	全体			「まちづくりを支える力」が重要であり、それぞれの「施策の柱」に、各主体の役割を明記しておくとよい。	木村委員	○
4	第4章	全体			「市民とともに」といったフレーズは様々な箇所で出てくるが、書き方をもう少し工夫するとよい。	轟部会長	○
5	第4章	全体			現状と課題について、課題だけが書かれており、施策がないものがある。また、現状分析の中で原因が整理されていない。現状とその原因、さらにあるべき姿があって課題があるという流れで整理すべきである。	依田委員	○
6	第4章	方向性1 豊かな緑と水辺を活かした、自然とともに生きるまちへ			現在の財政状況を考慮し、自然環境の部分に関しては「金をかけずにできることをどんどんやる」といった考え方を強調するということも検討してほしい。	轟部会長	
7	第4章	方向性1 豊かな緑と水辺を活かした、自然とともに生きるまちへ			自然や海辺の創出、環境保全・創造活動も含め、市民の関わり方を、具体的なライフスタイルの観点から推し進められるような記述ができるとよい。	西山副部会長	
8	第4章	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ		p.39	「1－1」で、緑としての、地域の農地をどうとらえるかについて記述があるとよい。	轟部会長	
9	第4章	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ		p.41～42	「1－1」について、市街化調整区域をどう捉えるかという課題がある。方向性4の集約型都市構造とセットで考える必要があるが、開発を抑えていくなどの適正な運用を施策展開の中で見えるようにしたほうがよい。	轟部会長	
10	第4章	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ 1-2 緑と花のあふれる都市空間を創る		p.41～44	里山の保全の一方で、公園の話もある。緑被率が減少してきている中で、農地・里山・山林をどう確保し、市街地の緑をどう回復するのか、この両面のスタンスが重要である。	依田委員	
11	第4章	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ	1-1-1 緑と水辺の保全・活用	p.41	農業を維持しなければ、「1－1」の豊かな自然を守るのは不可能である。市民に農業を理解してもらうことが必要であることから、たとえば、農業の多面的機能を数値化して、「1－1－1」について、農業の価値や多面的機能を市民にわかりやすく伝えることが重要である。	斉藤委員	
12	第4章	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ	1-1-1 緑と水辺の保全・活用	p.42	地域における、谷津田や里山の保全の担い手は減少してきている。連合傘下の団体で継続的に取り組んでいるところもあり、「1－1－1」の3項目目の「市民とともに取り組みます」について、いろいろな団体に声をかけるようにしてはどうか。	鵜澤委員	
13	第4章	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ	1-1-1 緑と水辺の保全・活用	p.42	花見川の記述がない。周辺環境や水質面で大事であり、大いに活かしていくべき。	金谷委員	
14	第4章	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ	1-1-1 緑と水辺の保全・活用	p.42	東大の緑地植物実験所は大いなる財産であり、なくなるのは絶対避けたい。保全を書き込むべき。	金谷委員	

第1回千葉市新基本計画審議会第1部会におけるご意見

第1部会：資料2

No.	原案の該当箇所				意見の概要	委員	両部会に共通する意見
15	第4章	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ	1-1-1 緑と水辺の保全・活用	p.42	「1－1－1」について、農業の維持には様々な方法があるが、たとえば、市民農園を農業経営者がやろうとしても、調整区域にはトイレも駐車場も設置できず、交流が持てない。このままでは緑の保全と活用は困難であるため、「許認可の緩和」を具体的に進めるべき。	斉藤委員	
16	第4章	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ	1-1-1 緑と水辺の保全・活用	p.42	JAでは認定農業者を中心に約240名について、維持や大型化のサポートをしており、いずれ法人化の方向にもっていくことも考えている。農業の担い手不足についてもしっかり記述してほしい。	斉藤委員	
17	第4章	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ	1-1-2 にぎわいのある海辺の創出	p.42	幕張新都心に来ても何もないのですぐに帰ってしまうという話をよく聞く。幕張新都心に来た人たちが夕方に飲食できる施設をつくるなど、「1－1－2」のいなげの浜の活性化について、工夫しなければならない。	金谷委員	
18	第4章	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ	1-1-2 にぎわいのある海辺の創出	p.42	「1－1－2」はハード面で、P92・93「5－1－1」はソフト面中心の印象だが、市民の満足度を高めるため、ソフトとハードの両立が求められてくると思うので、「1－1－2」でも、どういうことをやっていくのか、もう少し具体的に記述してはどうか。	木村委員	
19	第4章	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ	1-1-2 にぎわいのある海辺の創出	p.42	「1－1」の現状と課題で、「42kmに及ぶ海岸線」とあるが、どれだけ市民が親しめる海岸線があるのか疑問である。また、検見川の浜について、レジャーのイメージもあり、利用したい人も多いと思われることから、記述願いたい。	櫻井委員	
20	第4章	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ	1-1-2 にぎわいのある海辺の創出	p.42	モーターショーや大塚家具の撤退などにより低下した、幕張新都心の魅力を向上させることが大切であり、特に航路整備による船舶の停泊、ヨットハーバー、フィッシャーマンズ・ワーフなどウォーターフロントの活用は大事である。航路整備により、九都県市首脳会議で行っている「21世紀の船出プロジェクト」がうまく使えるし、「工場萌え」などの観光も流行っており、幕張から京葉工業地帯の夜景を見に行ったり、大島まで行くことも考えられる。 これらのことから、「1－1－2」について、幕張新都心のウォーターフロントの活用をもっと積極的に行うべきである。	猿田委員	
21	第4章	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ	1-1-2 にぎわいのある海辺の創出	p.42	「1－1－2」でいなげの浜だけが例示されているのが気になる。もう少し例示があってもよい。	轟部会長	
22	第4章	1-1 豊かな自然を守り、はぐくむ	1-1-2 にぎわいのある海辺の創出	p.42	「1－1－2」について、イメージがよくわからない。人工海浜が自然資源なのか観光資源なのかはっきりさせるとともに、自然資源と整理するのであれば、環境教育・自然共生型ライフスタイルなど市民がかかわれるしかけをにおわせる書き方をして、方向性がもう少し見える形にできるとよい。	西山副部会長	
23	第4章	1-2 緑と花のあふれる都市空間を創る		p.44	「1－2」の施策の展開は、公園緑地をつくることが中心で、管理については、「1－2－1」でパークマネジメントが書いてあるが、いかに管理するかが重要であり、施策の柱として別立てとしても良い。	村木委員	
24	第4章	・1-3 環境問題への対応を総合的に進める ・1-4 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る		p.45～49	「1－3」の内容は重要ではあるが、総合的と言いながら「1－4」では総合的になっていない。低炭素社会、循環型社会の後、3項目目に自然共生型ライフスタイルの推進と項立てをした方が良い。	西山副部会長	
25	第4章	・1-3 環境問題への対応を総合的に進める ・1-4 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る		p.45～49	「1－1」「1－2」は理解できるが、「1－3」「1－4」で急に話が地球規模に大きくなり、構成が難しい。むしろ、千葉市の地の利を活かして観光振興や企業誘致を行うという、お金を落とすストーリーにすべきである。	花澤委員	
26	第4章	・1-3 環境問題への対応を総合的に進める ・1-4 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る		p.45～49	「1－3」「1－4」について、千葉市で何ができるかという課題はあるが、地域でできることもあるだろう。	轟部会長	
27	第4章	・1-3 環境問題への対応を総合的に進める ・1-4 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る		p.45～49	「1－3」と「1－4」は、内容的には重なっており、統合も検討すべきである。	轟部会長	

第1回千葉市新基本計画審議会第1部会におけるご意見

第1部会：資料2

No.	原案の該当箇所				意見の概要	委員	両部会に共通する意見
28	第4章	・1-3 環境問題への対応を総合的に進める ・1-4 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る		p.45～49	「1－3」と「1－4」は内容的に同じである。「1－3」に「総合的に計画的に進める」とあるが、これは環境に限らず全体に共通して言えることであり、違和感がある。書くならば、もっと違うところでしっかりと書くべき。	依田委員	
29	第4章	1-3 環境問題への対応を総合的に進める		p.45	環境問題への対応について、たとえば、UR賃貸住宅でLED電球への交換によるCO2削減を検討しているが、住民の自主性に拠るところが大きい。また、現在、おゆみ野において、公園や雑木林を住民が自主管理するなど「まち育て」の活動を行っている。 「1－3」の施策展開は、主に市の施策を充実しましょうという書きぶりになっているが、市民、団体、企業などのそれぞれの主体がどのように活動すべきなのかなど、その役割について、もっと盛り込んでもよいのではないか。	宇佐見委員	
30	第4章	1-3 環境問題への対応を総合的に進める	1-3-2 環境保全・創造活動の促進	p.46	不法投棄問題について、「1－4－2」で読み取れないこともないが、「1－3－2」で文言または項目を追加してはどうか。	池田委員	
31	第4章	1-3 環境問題への対応を総合的に進める	1-3-2 環境保全・創造活動の促進	p.46	「1－3－2」について、空き缶や吸い殻などのごみがなくなっていくことが重要であり、「街中の景観を捉えた環境保全」を記述すべきである。	木村委員	
32	第4章	1-4 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る		p.47	「1－4」のグラフ（温室効果ガスの総排出量：千葉市）について、産業部門の占める割合が大きいので、産業部門のより一層の削減も盛り込めるとよい。	轟部会長	
33	第4章	1-4 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る		p.47	「1－4」のグラフ（温室効果ガスの総排出量）は産業部門が悪いように誤解される危険性が高い。 千葉市経済を基盤から支える電力会社や石油プラントなどの産業部門については、たとえば千葉市の電力会社が供給する電力は、地元への供給は1／3程度であとは東京都に供給しており、あるいは鉄鋼1トンあたりのCO2排出量は、中国は日本の8倍、ロシアは10数倍という状況である。グローバル経済の中での競争を阻害するような政策は行ってはならない。	花澤委員	
34	第4章	1-4 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る		p.47～49	「1－4」の温室効果ガスの総排出量の図について、産業部門ばかりが目立つが、産業部門は原単位ベースの削減を進めているはずである。総排出量を比較するなら全国とではなく、北九州市や川崎市など、社会構造の似ている都市と行うべき。産業に隠れてしまっている家庭・業務部門や、面的なエネルギーの利活用に関する記述がみられない。他都市を参考に、街区レベル・地区レベルでの再生可能エネルギー・未利用エネルギーの活用について記述すべき。	村木委員	
35	第4章	1-4 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る	1-4-2 循環型社会の実現に向けた取組みの推進	p.47～49	エネルギーについては、モデル地区をつくり、その地区における先進的な取組みや、既存地区での取組みも盛り込めるとよい。	轟部会長	
36	第4章	1-4 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る	1-4-1 低炭素社会の実現に向けた取組みの推進	p.48	「1－4－1」温室効果ガスの削減目標にまだまだ達しない状況の中で、自動車交通に起因する温室効果ガスの削減が重要であり、公用車の低公害車への買い替えなど、財政状況は厳しいと思うが、市が率先してやることが重要である。	鵜澤委員	
37	第4章	1-4 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る	1-4-1 低炭素社会の実現に向けた取組みの推進	p.48	「1－4－1」2項目目については、自動車の排出ガスの話か、それとも違うのか。自動車の排出量は、トラック協会のヒアリングでも下がってきており、むしろ車の滞留が問題。車を流すための取組み、もしくは排気ガスが溜まってしまう地区における空地の確保や高層建築物が建たないようにするなどの規制とあわせて実施することを考えるべき。	村木委員	
38	第4章	1-4 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る	1-4-1 低炭素社会の実現に向けた取組みの推進	p.48	渋滞解消は重要だが、渋滞をなくすと自動車利用が増える側面もあるため、注意が必要。公共交通への転換も視野に入れるべき。	轟部会長	
39	第4章	1-4 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る	1-4-2 循環型社会の実現に向けた取組みの推進	p.49	最近、ごみに関する指導や罰則などが厳しくなっているが、急に対応できない人もいるので、多少は間違えてもいいような、あたたかい市のままでいてほしい。「1－4－2」の2項目目について、家庭ごみの有料化は、計画期間中は「検討」にとどめてほしい。	春川委員	